



会社敷地内でエンジン停止中に撮影されたものです。通常の運転時には必ずシートベルトを着用してください。

新連載

自動車リサイクル業界を担うホープ(9)

名前: 明石 磨予 (あかし まよ) (19歳)

所属: 株式会社モリタ

担当: 配達・事務

特技: コミュニケーション

MBTI: 冒険家型 (感受性が豊かで、現実的な行動力と、柔軟で創造的な思考を兼ね備えています。)

- 仕事で誰にも負けない部分
社会人1年目なので、色々な事を吸収して、即行動ができる所。
- この業界の魅力を一言で
リサイクルにより新たな資源を作り、未来へと繋げていく所。
- 将来の業界への期待
将来、自動車の全てが資源循環できればと期待しています。

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。

INDEX

【新連載】自動車リサイクル業界を担うホープ / 巻頭言 — P.1

年頭にあたってのご挨拶—代表理事 石井 浩道 — P.2

関係機関の皆様より、年頭のご挨拶 — P.3

【特集】資源回収インセンティブ制度を紐解く — P.4

エコアール見学会/JAERA 会議報告 / 自動車リサイクル会議報告 — P.5

11月新車販売・使用済自動車発生台数 — P.6

鉄スクラップ最新情報 — P.7

JAERA 賛助会員のご紹介 / 関係団体からのお知らせ — P.8

行事予定・お知らせ / 編集後記 — P.9

巻頭言

広報部会

永田 則男

明けましておめでとうございます。

本年も日本自動車リサイクル機構共々、ニュースレターを宜しくお願い申し上げます。

さて、昨今はAIの進化が目覚ましく、いまや日常生活にAIが入り込んで来ています。先日、小学校の先生が嘆いておられました。というのも、いまの小学生は生成AIを使って、どんな宿題もたちまち終わらせてしまうからです。私達の時代は、冬休みに出させる宿題にうんざりしながらも格闘したのですが、いまの時代は事情が変わってきているようです。たしかに便利な世の中になりましたが、その一方で、いくばくかの罪悪感にかられるのは私だけでしょうか。

ニュースレターの編集作業もネタに詰まるなど、大変なことも多いのですが、それをAIに頼らず編集部はアナログで頑張っております。皆さま、今年も応援宜しくお願い致します。

01

▶ 年頭にあたっての挨拶 - 代表理事 石井 浩道

新年のご挨拶

皆さま、新年あけましておめでとうございます。

本年も皆さまにとって素晴らしい年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

昨年6月に酒井前代表理事からバトンを受け、JAERAの新代表としての活動を開始いたしました。不慣れな点多かったと思いますが、皆さまのお役に立てるよう懸命に取り組んでまいりますので引き続きよろしくお願い申し上げます。

振り返れば、昨年も私たちを取り巻く環境は急激な変化を遂げており、その中で直面した課題や新たな機会が、業界の成長と変革を後押しする原動力となりました。これもひとえに、皆さまのご支援とご協力のおかげです。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

さて、2025年が始まりました。本年のJAERAの取り組みとして、以下の目標を掲げ推進してまいります。

1. 誰もが輝ける未来づくり計画の推進

- ・2024 JAERA 誰もが輝ける未来づくりの計画を具体的に進めてまいります。

2. 国や行政、関係機関とのコミュニケーション強化

- ・業界発展のための基盤づくりを推進し、不適正処理業者の是正に努めます。

3. 自動車静脈産業の業界一枚岩構想を推進

- ・自動車の静脈産業に関わる団体と連携を図り、業界全体が一枚岩となるよう取り組みます。

4. 共同出荷の拡大と会員企業の収益性向上

- ・情報格差の是正に努め、会員企業の収益性を向上させます。

これらの目標を実現するためには、皆様との連携が欠かせません。業界全体が一丸となって、知識や経験を共有しながら、課題解決に取り組むことが必要です。また、それぞれの立場からの創意工夫を生かし、新たなアイデアや技術を取り入れることで、さらなる可能性を広げてまいりたいと考えております。

2025年は、持続可能な社会への移行がさらに進む年となるでしょう。世界中の企業や政府がカーボンニュートラルを目指し、再生可能エネルギーの導入が進むなかで、資源の再利用やリサイクルの重要性がより一層高まっていくのではないのでしょうか。その中心を担っていく我が業界として、引続きの適正処理、コンプライアンス遵守を念頭に、皆さんと手を取り合い、より良い方向に進んで行けるよう共に前進してまいりたいと思います。

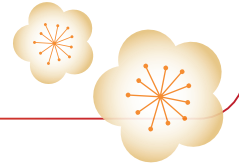
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



2025年1月
一社) 日本自動車リサイクル機構
代表理事 石井 浩道

02

▶ 関係機関の皆様より、年頭のご挨拶



経済産業省
製造産業局 自動車課
自動車リサイクル室長
原 充 様

新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

日頃より自動車リサイクル制度の円滑な運営にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

近年、循環経済にかかる議論が活発になっており、経済産業省の審議会でもプラスチック等の再生材利用について検討が進められております。自動車リサイクルでは、貴機構のニューズレターの特集にある「資源回収インセンティブ制度」が2026年4月に開始予定です。近年、使用済自動車の引取台数は300万台から270万台と減少傾向ですが、こうした中で1台あたりの再生資源の回収率を高めていく取組が大変重要な課題となっております。

本年も、引き続き、貴機構及び皆様の一層のご協力をお願いするとともに、益々のご発展とご健勝を祈念いたしまして、私からの新年のご挨拶とさせていただきます。



公益財団法人
自動車リサイクル促進センター
専務理事
永井 辰幸 様

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃から弊財団の活動にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。自動車リサイクルの中核を成し、リサイクルの安定稼働に絶え間なく取り組み、資源循環の高度化に向けた改善、改革を進めておられる貴機構に敬意を表します。今年も弊財団は自動車リサイクル制度の更なる安定化、自動車リサイクルの高度化促進、そして JARS の大改造による利便性向上に取り組む所存でございます。

本年の皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念致しますと共に、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。



環境省 環境再生・資源循環局
総務課
資源循環ビジネス推進室長
河田 陽平 様

新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

関係機関の皆様におかれましては使用済自動車の適正なりサイクルにご尽力いただき深く御礼申し上げます。

環境省では、自動車リサイクルのカーボンニュートラル及び3Rの推進・質の向上に向けて議論を重ねてまいりました。昨年11月には自動車向け再生プラスチック市場構築のための産官学コンソーシアムも立ち上げました。本年は、自動車リサイクル法の完全施行から20年が経過することから、近年の議論の進捗や直近のデータも踏まえ、改めて施行状況の評価・検討を行ってまいります。

引き続き貴機構会員皆様方の一層の御協力をお願いするとともに、御健康と御多幸をお祈りして、年頭の御挨拶とさせていただきます。



一般社団法人
自動車再資源化協力機構
代表理事
堂坂 健児 様

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平素より自リ法3品目及びLiBリサイクルへご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、自動車リサイクル士制度を通じた適正処理推進に心より感謝申し上げます。

当法人は、本年より次世代モビリティリサイクルシステムを稼働いたします。本システムの稼働により、多様なモビリティ社会に対応した先進的なリサイクル体制を推進してまいります。今後も循環型社会の実現とカーボンニュートラルの達成に向け、ELVの適正処理推進は勿論のこと、時代の要請に応え、将来にわたって自動車リサイクルに貢献していく所存です。

本年の貴機構の益々のご発展と会員各位のご健勝を祈念いたしますと共に、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



03 ▶ 【特集】資源回収インセンティブ制度を紐解く (Part8)

設備導入支援に関する最新情報

資源回収インセンティブ制度（本制度）について“正しい理解”をテーマとした特集第8弾! 前回は樹脂の歴史や種類をご紹介しました。今回は前々号 (Part 6) で触れた樹脂の破砕機について、設備導入支援に関する補助金の最新情報をご紹介します。

※Part 6はこちら：<https://www.elv.or.jp/media/Rakude/20241101090601-jname.pdf> (3P目)

【樹脂破砕機導入の意味】

Part 6では、回収した樹脂をいかに効率的に輸送するかが重要なポイントであり、改善案として「樹脂破砕機の導入」と「ついで便の活用」の説明をしました。樹脂破砕機を導入するメリットは、輸送する樹脂の体積を減らし、一回の運搬で多くの量を運ぶことが可能であるという点にあります。

ただし、導入にあたっては、ELV由来の樹脂であること、また、再生材に異物が混入して品質問題を起こさないようしっかりと確認を行う体制が必要となります。加えて重要となるのは、インシャルコスト（導入費用）やランニングコスト（メンテナンスなどにかかる費用）の見極めです。

【補助金の紹介】



インシャルコスト
(初期費用)

本体費用
付帯設備費用
設置費用
など



ランニングコスト

破砕機の刃の交換
電気代
定期メンテナンス
など

自動車における再生材供給拡大に向けた産官学連携推進事業費（経済産業省連携事業）



【令和6年度補正予算（案）957百万円】

循環経済への移行に向け、産官学で一致団結し、国内における再生材市場構築を進めます。

1. 事業目的

2023年7月に提案された欧州のELV（廃自動車）規則案などの国際的変化に対応しながら、質の高い再生材の供給を拡大していくことは、循環経済への移行を国家戦略として掲げている我が国にとって重要である。本事業では、自動車における再生プラスチックの供給拡大と再生材市場構築に向け、産官学で連携し、サプライチェーンを通じた課題に対応する。

2. 事業内容

1. 産官学連携による調査等

- ① 自動車向けの再生材市場拡大のための調査

2. 廃自動車からのプラスチック回収促進事業

- ② 廃自動車からのプラ回収量拡大に向けた課題分析
- ③ プラスチック回収量拡大・輸送効率向上のための破砕設備導入支援

3. 高品質な再生材の供給促進事業

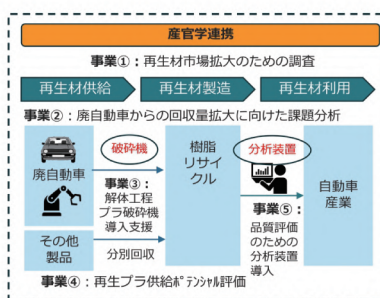
- ④ 国内の静脈産業における再生プラ供給ポテンシャルの評価
- ⑤ 再生材の品質評価のための物性・懸念化学物質等の分析装置導入支援

3. 事業スキーム

- 事業形態 請負事業、間接補助事業
- 請負先・補助対象/ 民間事業者・団体
- 実施期間 令和6年度

お問合せ先：環境省 環境再生・資源循環局 総務課 資源循環ビジネス推進室 電話：03-6205-4946

4. 事業イメージ



※出典：環境省HP https://www.env.go.jp/guide/budget/r06/r06-hos-gaiyo_00001.html

※応募要件など具体的な内容は今後決まるため、現時点でお問合せ先への連絡はご遠慮ください。

今回ご紹介する「自動車における再生材供給拡大に向けた産官学連携推進事業費（経済産業省連携事業）」では、再生材供給の拡大に向けた様々な事業が対象となっており、そのなかで「プラスチック回収量拡大・輸送効率向上のための破砕設備導入」として補助金事業があがっています。今回は速報としてのご紹介ですが、**応募要件など本補助金に関する最新の情報は、分り次第ニュースレターでご案内いたします。**

【まとめ】

樹脂破砕機の導入について、現在検討を行っているという事業者の声も聞こえてきています。今回は本補助金を導入の一助としていただけたらと考えご紹介いたしました。

制度開始が迫るなかで、参画される皆様がいかに効率よく樹脂を回収・管理・輸送できるかがキーポイントであり、樹脂破砕機の導入もその手段の一つです。なお、**資源回収インセンティブ制度への参画にあたっては、樹脂破砕機の導入は必須ではありません**ので、こちらは誤解のないようご注意ください。

次号に続く!!

04

▶ エコアール見学会を開催!最新の取り組みを間近で体感

使用済自動車の解体・リサイクルに関する最先端技術や取り組みを学ぶ場として JAERA 未来部会主催の解体現場見学会が11月29日(金)に開催されました。見学会場となった栃木県足利市の株式会社エコアールは、効率的で精緻な解体技術を誇る、自動車リサイクル業界をけん引する企業です。

参加者の皆様は、大きな敷地と施設、多くのニブラが動く現場の迫力に驚きつつも、「こんなにスマートに解体が進むなんて!」と感心の声上がる場面も見られました。解体の流れだけでなく、自動車由来の素材等がどのように新たな資源に生まれ変わるのか、その過程を間近で体感し、多くの学びを得ていただけたようです。

特に印象的だったのは、エコアールならではの現場の工夫。「作業動線が無駄なく整理されていて、自社でも取り入れられるヒントを発見しました。」「限られたスペースでも効率的に稼働している設備配置に驚いた。」といった感想が寄せられました。さらに、「従業員の全員が作業中にもかかわらず気持ちの良い挨拶をしてくれた。改めて我が社でも見習いたい。」という声も。まさに、“自動車解体の最先端”を覗く体験だったのではないのでしょうか。



参加者の皆様

05

▶ JAERA 会議報告

第2回ブロック長会議

12月13日(金) 東京都港区 (WEB 併用) —一枚岩がキーワードに—

全国8つのブロック長が集まるブロック長会議が開催された。“業界一枚岩の構想”の検討、“JAERA会員の誰もが輝ける未来づくり”に関する具体的な調整、また、“自動車リサイクル士制度に関する今後の方針”や“新たな共同出荷事業”の検討など、今後のJAERAを大きく左右する議題が次々と挙がった。各ブロックからは仕入台数減少で苦しむ状況ながらも、地域単位での共同出荷や情報交換などの動きが多くみられた。

会議全体を通して共通するのは「一枚岩」というワード。「今後グローバル化が求められる自動車解体業界において、競争相手は世界になると見据えている。そのため、会員同士や業界全体が一枚岩とならなくてはいけない。」と石井代表が語り、今後は、全体の中で各セクションでの役割の明確化していく段階に突入するとして閉会となった。



会議の様子

東北ブロック会議

12月17日(火) 宮城県仙台市 (WEB 併用) —JAERA 東北ブロックならではの取り組みを模索—

東北の各支部長とJAERA本部からは阿部専務理事が出席した今回の会議では、ブロック長会議の内容が綿密に共有され、活発な議論が交わされた。特に東北ブロックでは、各支部が連携して独自の共同出荷事業を積極的に進めており、事業の拡大に向けた可能性や今後の方針について意見交換が行われた。参加者は、事業の効率化や規模拡大に向けた具体的な施策を提案し、より一層の協力体制の構築が重要であるとの認識を共有していた。

06

▶ 自動車リサイクル促進センター (JARC) 自動車リサイクル会議を開催

JARC主催の自動車リサイクル会議2024が12月5日(木)に開催されました。対面とWEBの参加者合わせて654名が参加し、業種別の参加者割合を見ると解体事業者・破砕事業者が最も多く、この会議への注目度が伺えます。

JARC ホームページに当日の資料や講演動画を配信しておりますので、参加できなかった皆様はぜひご覧ください! (<https://www.jarc.or.jp/recyclemeeting202412/>)



会場の様子

07

2024年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業
11月出荷状況と今期累計

上段：11月出荷数 下段：今期累計 単位：個

参加会社数 (社)	プリウス20	プリウス30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィルダー	クラウンHV GWS204	クラウンHV AWS210
23	7	37	0	0	61	1	0	6
70	85	393	4	1	386	5	7	15

SAI/レクサス HS250H	日産デットロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタHV	プリウス50	プロボックス サクシード	マツダ アクセラ	不良品A~C	合計
3	2	6	0	1	0	0	11	135
7	7	12	4	6	0	0	135	1067

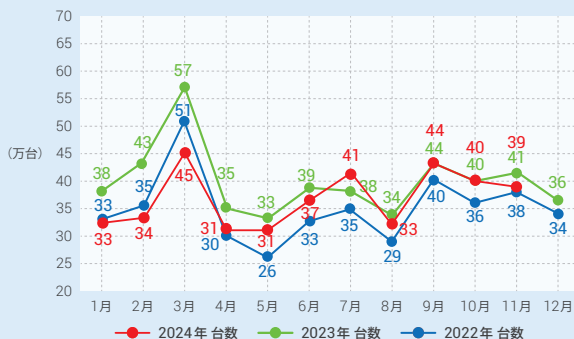
2023年度の結果はこちら ▶

<https://elv.or.jp/index.php?itemid=1906>

08

11月新車販売・使用済自動車発生台数

2024年11月度 新車販売台数 389,529台 (前年同月比94.8%)



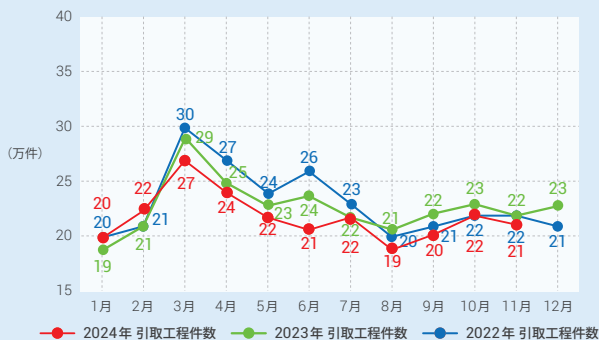
新車販売の月別推移 (2024年 2023年 2022年)

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

過去の新車販売台数推移

年累計	台数	前年比 (%)
2024年 (11月まで)	4,091,708	92.7
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2010年	4,598,615	88.5

2024年11月度 使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況



使用済自動車引取件数の月別推移 (2024年 2023年 2022年)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

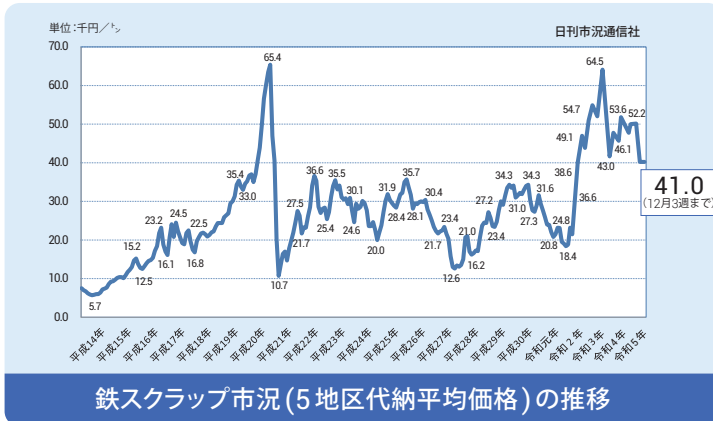
引取件数	
11月	208,301件 (前年同月比93.2%)
フロン回収工程	
11月	186,267件 (前年同月比94.0%)
解体工程	
11月	214,873件 (前年同月比93.6%)

09

鉄スクラップ最新情報

[提供：日刊市況通信社]

12月第4週（23日）の鉄スクラップ動向



12月23日の国内スクラップ炉前実勢価格（中心値）

		H2	気配
関東	北関東	40,000～41,000	値下がり
	南関東	40,000～41,000	値下がり
	浜値	39,500～40,500	値下がり
	名古屋	40,000～41,500	弱含み様子見
関西	大阪	40,500～42,000	様子見
	姫路	41,500～43,000	様子見

東日本・東海相場が値下がり 東鉄田原・宇都宮が500円値下げ

北海道を除く東日本と東海市場の鉄スクラップ相場が12月20日から下落する展開となった。続落する輸出商談価格に対し国内相場に割高感が出ていたことに加え、国内電炉の年末年始の集中炉休日程が迫ってきたことから、需要家筋が引き合いを弱めたためだ。東日本市場で一部先行して値下げする動きが散発していたが、全体に値動きが見られたのは10月上旬の値上げ改定時以来。値下がりりは9月下旬以来だ。

東京製鉄は12月20日、田原工場と宇都宮工場が鉄スクラップ購入価格を全品種500円値下げ。両工場とも特級購入価格を4万1000円とした。この動きに東日本、東海市場の需要家筋が反応。500円どころの値下げ対応が広がった。

東日本市場では一部で購入価格を据え置いている筋があるものの、北海道を除くほぼ全域で値下がり。東海市場は、東京製鉄名古屋サテライトヤードが据え置いたこともあり、電炉筋の値下げ改定は20日時点で田原工場を含む3社にとどまっている。

関東 電炉筋に500円値下げ広がる 湾岸筋も浜値を値下げ

関東市場では、12月20日に電炉筋と湾岸商社・シッパー筋の間で購入価格を値下げする動きが広がり、関東相場は500円どころ下落する展開となった。輸出商談価格が続落する展開となっているうえ、電炉筋の年末年始の集中炉休日程が迫り、一部はすでに炉休を実施しており、需給が緩和する状況に転じたためだ。関東地区のH2炉前実勢価格は40,000～41,000円中心。H2浜値は39,500～40,000円中心、高値40,500円見当となった。

東海 東鉄・田原工場が値下げ、2社が即日追随

東京製鉄は12月20日から田原工場の購入価格を一律500円引き下げた。田原工場の価格改定は10月10日以来、値下げは9月27日以来となり、特級価格は陸・海上とも4万1000円へと下落した。即日追随した域内電炉は2社。「最近の傾向からも対応が1日遅れるのは想定内。各メーカーの生産も上がっておらず、電炉各社の値下げ対応は広がるのでは」（問屋筋）との見方が多い。H2炉前実勢価格は40,000～41,500円中心。

大阪 品種によって軟化気配、目先に警戒感

大阪地区の鉄スクラップ市況は、品種によって軟化気配へ向かっている。荷動きに殺到感はないが、ヘビー類については複数の電炉筋が値下げに傾いている。これに20日からの東京製鉄の拠点限定の購入価格の引き下げも加わって、目先の市況に対して警戒を持つ声も少なくない。H2炉前実勢価格は、大阪地区が40,500～41,500円中心、一部高値42,000円と下値が切り下がっている。姫路地区は41,500～43,000円中心で推移している。

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、12月23日午前時点のもの）

10 ▶ JAERA 賛助会員のご紹介

株式会社 Legend 金属回収センター



株式会社 Legend 金属回収センターは JAERA の賛助会員として、自動車リサイクルを手掛ける会員の皆様のお手伝いできればと考えております。本社は埼玉県有加須市で、触媒事業を中心に酸素センサーやハイブリッドバッテリー、基板、自動車部品などを扱っています。

国内の営業所は北海道をはじめ、宮城県、埼玉県、愛知県、兵庫県、広島県、福岡県、沖縄県と全国を網羅しています。さらに営業拠点は国内だけではなく、ドイツやイタリア、イギリスをはじめとしたヨーロッパ各国はもとより、アメリカやインドに至るまで、グローバルに事業展開を行っています。

当社の一番の強みは各触媒を正確に分析していることです。車検証やコーションプレートから触媒査定を行うと共に、ICP 分析装置を用いた正確な分析結果をベースにお客様との取引を行っています。世界各国で事業展開をしていることも強みで、国内だけでなくグローバルな取引を行うことができます。

また、新型車種などについては新たな触媒が使われることも多くなっていることから触媒研究は必要不可欠と捉え、日々情報のアップデートを行っています。

JAERA 賛助会員として、会員企業の皆様のリサイクル事業の一助を担えるよう努力してまいりますので今後とも何卒よろしくお願いたします。

JAERA 会員限定! 期間限定特別価格で買い取ります!

お問合せはこちらの
QRコードまたは
TELから
TEL: 048-971-9232



対象：ホンダ フィット ニッケル水素電池



マスコットキャラクター
しょ君

JAERA 賛助会員の皆様はニュースレターで企業などのご紹介をいただけます。詳細は事務局までお問合せください!

11 ▶ 関係団体からのお知らせ

自動車再資源化協力機構 (JARP)

— 次世代モビリティリサイクルシステムがいよいよ稼働開始 —

次世代モビリティリサイクルシステムは、2025年1月6日(月)から稼働を開始いたします。JARP のホームページに専用ページを設けておりますので、次世代モビリティのユーザー様をはじめ、次世代モビリティのリサイクラー様、またこれから本制度への参画を検討されている自動車解体事業者様も是非ご覧ください。

次世代モビリティリサイクルシステム ▶

https://jarp.org/productslist/advanced_mob/

日本自動車リサイクル研究所 (JVR) — 第2回まちかど講演会のご案内 —

JVR では「まちかどの講演会」第2回を2025年1月24日に開催いたします。サーキュラーエコノミーとEV動向をテーマにします。参加募集チラシをご確認の上、ふるってご参加ください。(※募集チラシ中の赤字は第1回からの変化点です)

参加者募集チラシはこちら ▶

<https://jvr.tokyo/images/20241221.pdf>

■申込締切日：2025年1月20日(月) JVR事務局宛て

12 ▶ お知らせ

新JAMA方式一括作動処理ツール専用ケーブル販売開始!

2025年10月より新JAMA方式一括作動処理ツールの販売を開始しておりますが、このたび専用ケーブルの販売も開始いたしました。旧JAMAツールのケーブルと同じく「メインケーブル」と「リードケーブル」の2つで構成されており、それぞれバラで購入いただくことも可能です。

なお、メインケーブルとリードケーブルの両方とも新JAMAツール用のケーブルであれば、旧JAMAツールでも使用が可能です。(詳細は以下のリンク先をご確認下さい)

JAERA会員の方にはよりお安くご提供しておりますので、ぜひ購入をご検討ください!



左:メインケーブル 右:リードケーブル

専用ケーブルの購入申込はこちら▶

https://www.elv.or.jp/media/5/20241126-202411sadotool_cable.pdf

JAMA方式一括作動処理ツールの購入申込はこちら▶

<https://www.elv.or.jp/media/5/20241001-202410sadotool.pdf>

編集後記



真冬のイメージはと聞かれ、すぐに思い浮かぶのが夜空の北極星です。北極星は古来から導きの星とされてきました。地球の自転軸を伸ばした先にあり、真北で輝いています。一定の場所で動かずに、まばゆい光を放つ様は「ゆるぎない、ぶれない」と言うイメージがあります。このような姿は我々も大切にしなければなりません。

ただ、私たちが今大切にしたいのは、ゆるぎなさだけではなく「時代によっては変わってもいいのだ」という“おおらかさ”を持つことではないでしょうか。変わりうる可能性を持ちつつ、柔軟な姿勢であることが必要であると思います。当たり前だと思っていたことが、ある日を境にすっかり変わってしまったという事実をコロナ禍からも学んでいます。

石井代表理事は、11月14日の第59回自動車リサイクルWGで、業界としての現状と提案を6つしています。どれも私たち解体業者に直結した問題ばかりです。今大苦戦を強いられ藁をも掴む状況の中、私たち業界の北極星でもある石井代表理事には、自分の軸に根差したものを大切にいただきながら、今年もJAERA全員で後押しをしていけたらと思います。

広報部会長 田村 幸男

1 月の主な行事予定 ※事務局は1月6日(月)から営業開始となります。

- 7日(火) | 第10回広報部会 (WEB)
- 14日(火) | J-FAR (エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり事業) 定例会 (WEB)
- 16日(木) | J-FAR (資源回収インセンティブ実装事業) 定例会 (WEB)
- 18日(土) | 九州ブロック会議 (対面)
- 22日(水) | 自動車リサイクル士更新講習会 (2回目) ※1回目を受けた方は受講不要
- 23日(木) | J-FAR (異常電池適正処理) 定例会 (WEB)

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

